



都会の喧騒から離れ、
自分の時間が確保される
「ほどよい地方都市」新潟で
一緒に「遺伝看護」を学びませんか？

教育目標

- 高度な専門的知識と技術を持ち、**看護理論の追求**とそれに対応した看護実践ができる人材を育成する。
- また、日本看護協会が認定する**専門看護師**（慢性看護・母性看護・がん看護・地域看護）の育成をする。
- 看護管理者として**リーダーシップ**が発揮できる人材を育成する。
- 地域や集団に対して疾患予防や健康増進などの**看護保健活動**を指導的に行える人材を育成する。
- 国際的な**保健看護活動の協調・協力事業で活躍でき、開発途上国の保健医療の発展に寄与できる人材を育成する。
- 新しい知識や技術を修得し、**創造的な研究**を行うことにより、実践の場を活性化し、指導的な役割を担うことができる能力を開発する。
- 看護学の**学問体系の確立**と実践に基づく研究分野の開拓を目指し、教育研究者への道を歩みうる人材を育成する。

教育研究の概要と特色

- 各専門の学域に共通し、かつ専門的研究を進めていく上で有用な基礎教育科目として看護倫理学、医療ナラトロジー、看護教育、看護研究、看護理論を開講している。
- 看護倫理学では、倫理的側面から看護の役割について、医療ナラトロジーでは患者中心の治療やケアについて教授する。看護教育、看護研究、看護理論においては看護領域での教育や研究に関する原理、方法、形態、種類、理論構築法等をそれぞれ教授する。
- 各専門領域は、基礎看護学、母性看護学、小児看護学、成人・老年看護学、精神看護学、地域看護学、国際看護学で構成されている。
- 共通する教育方針は科学的根拠に基づく看護の知識・技術を患者支援や看護介入に応用・展開する実践的研究、多様な場における援助技術の開発、人間理解に焦点を当てた教育研究を行うことである。

新潟大学で遺伝看護を学ぶメリット

その1 学際的な学びを実現できる環境

国立の総合大学として医学部を含めて、**9つの学部**（人文、教育、法、経済、理、歯、工、農）があります。
新潟大学歯学部総合病院には、**遺伝子診療部**が開設されています。
特に、医学部医科学専攻には「**認定遺伝カウンセラー**」コースもあります。

その2 研究法のコースワークの充実

保健学専攻大学院では、研究科共通科目として「**リサーチメソッド・バイシックス/アドバンス**」を開講し、体系的な研究方法のコースワークの充実に心がけています。
3専攻からなる豊かな教授陣が、指導にあたります。

その3 働きながら学ぶ環境

社会人特別選抜の実施、**昼夜開講制**や**休日・夏期・冬期休業日**などを利用した**集中授業**の実施、**長期履修制度**の導入などによって、社会人の学習機会拡大を図っています。

その4 他のCNSコースとのネットワーク

5つのCNSコースが開講（遺伝看護は予定）慢性、がん、在宅、母性のCNSコースがすでに開講しています。
領域を超えた「CNS」の役割について、討議することも可能となります。

その5 学費への経済的支援

保健学専攻独自の「**研究費助成制度**」があります。

カリキュラムの紹介

<博士前期課程> 授業科目および単位数 便覧 別表第1（第10条関係） 教育研究分野別授業科目

- ◆ 遺伝看護学特論Ⅰ【基礎人類遺伝学】
- ◆ 遺伝看護学特論Ⅱ【臨床遺伝学】
- ◆ 遺伝看護学特論Ⅲ【遺伝医療と社会】
- ◆ 遺伝看護学特論Ⅳ【対象論】
- ◆ 遺伝看護学特論Ⅴ【症状管理】
- ◆ 遺伝看護学特論Ⅵ【基礎人類遺伝学】
- ◆ 遺伝看護学演習Ⅰ【カウンセリング】
- ◆ 遺伝看護学演習Ⅱ【ピア・地域遺伝サービスと教育】
- ◆ 遺伝看護学演習Ⅲ【特定領域事例分析】
- ◆ 遺伝看護学実習Ⅰ【遺伝カウンセリング見学】
- ◆ 遺伝看護学実習Ⅱ【特定領域直接ケア】
- ◆ 遺伝看護学実習Ⅲ【役割実習】
- ◆ 遺伝看護学実習Ⅳ【地域遺伝】



選べる2つのコース

遺伝看護に関する
研究をしたい!!



- 博士前期課程・後期課程において、有森直子の研究室に所属して研究（論文）を進めていただきます。
- 取得単位数は、**30単位**

臨床で、遺伝看護の
スペシャリストを目指す!!



- 保健学専攻看護学分野博士前期課程「遺伝看護コース※」をお選びください。
（※現在、日本看護系大学教育協議会に、遺伝看護専門分野コースの申請中）
- 本コースを修了後に、遺伝看護専門看護師（仮）の受検資格を得ることができます。
- 取得単位数は、**50単位**

授業科目履修例

看護学分野 履修例 13（遺伝看護専門看護師）

1. 対象となる学生

遺伝看護に関心があり、専門看護師をめざす学生

2. 修士論文のテーマ

「多因子遺伝（生活習慣病）」に関する遺伝情報の提供方法」

3. 履修科目

保健学研究科共通科目	2単位
臨床医療心理学	(2単位)
看護学分野共通科目	14単位
指定科目	6単位
フィジカルアセスメント	(2単位)
臨床薬理学	(2単位)
病態生理学	(2単位)
選択科目	以下のうち8単位以上
看護倫理学	(2単位)
看護教育	(2単位)
看護研究	(2単位)
コンサルテーション論	(2単位)
看護理論	(2単位)
基礎看護学特論Ⅰ（看護管理学）	(2単位)
専門科目	
指定科目	34単位
遺伝看護学特論Ⅰ～Ⅶ	(10単位)Ⅶは選択
遺伝看護学演習Ⅰ～Ⅲ	(6単位)
実習Ⅰ～Ⅳ	(10単位)
保健学特別研究（看護学）	(8単位)
合計	50単位
→研究者コースは30単位	

4. 履修例の概要

本履修例では、専門看護師受験資格取得に必要な共通科目了科目以上（必修3科目、選択4科目以上）を学習し、専門職としての基本的知識を幅広く学習する。

- 遺伝看護学特論Ⅰ～Ⅶでは遺伝学に関する内容を学ぶ。
- 特論Ⅳでは遺伝看護の対象に関する内容を学ぶ。
- 特論Ⅴでは遺伝看護援助論としての症状管理や心理社会的支援方法を学ぶ。
- 演習Ⅰでは、意思決定支援としての情報提供やカウンセリングについて学ぶ。
- 演習Ⅱは遺伝的課題をもつひとと当事者や家族会のグループとの共同の在り方を学ぶ。
- 演習Ⅲは、各学生の特定領域の事例検討をナラティブ分析の手法を用いて学ぶ。
- 実習Ⅰ～Ⅳでは、遺伝診療部のある遺伝カウンセリングの見学から、特定領域での直接ケア実習まで段階的に学ぶ。さらにCNSとしての役割実習や、地域遺伝相談・遺伝教育の在り方も学ぶ。これらの一連の過程の中で、各自の研究テーマを掘り下げ、論文作成の過程を学ぶ。

